

第11回名立区地域協議会 次第

日時：令和7年3月26日（水）午後6時30分から
場所：名立区総合事務所 第2会議室

1 開 会

2 自主的な審議

(1) 不動地区の将来ビジョンについて

…資料 No. 1、1-2

(2) 自主的な審議テーマの検討について

…資料 No. 2

3 その他事項

4 次回会議について

令和___年___月___日 ___時___分から

5 閉 会

新潟県上越市名立区

(案)

不動地区将来ビジョン

令和7(2025)年3月



- 人口減少が続く中ですが、さらなる地域づくりのために、その基盤となる町内会組織の意思決定を簡素化しようと、下瀬戸・上瀬戸・東飛山と3つの集落を「不動」町内会に統合したのが令和2年4月です。
- 続いて、新しい地域づくりの推進母体となる団体を設立するために何度も話し合いが行われ、「輝く里不動の会」が令和4年4月に発足しました。その話し合い中で、地域の将来像も話し合われました。
- 石油景気に沸いた明治期から、当地には各地から多くの方が出入りし、交流・交友を図ってきた歴史があります。また、市内最大の水道水源地を抱え、この「水」という資源は私たち住民の誇りです。さらに、その源となる広大なブナ林は、一生産森林組合が所有・管理する広葉樹林としては全国屈指ともいわれています。
- 今後、移住を希望する方を新たに本格的に募りながら、未来永劫いつまでも続く故郷「不動地区」を創っていきたいと思います。
- 過疎化が進んでいるということは、別の面から捉えれば、市内の市街地をはじめ県内や全国各地に、名立区瀬戸・東飛山を縁に繋がる人たくさんいるということ。誇りである人材と地域資源を活用しながら、「住んでもいいかな」という魅力ある地域づくりを今後も続けていきます。



項目	2005 (平成17)	2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)
基盤となる 体制の整備	市町村合併により 西頸城郡名立町不動地区から上越市名立区不動地区へ		2020(令和2)年4月 不動町内会が発足		2022(令和4)年4月 輝く里不動の会が発足		2024(令和6)年4月 新しい隣組がスタート		生産森林組合 組合員整理完了				
地域への 誇りの醸成		ふるさと夏まつり 春山の散策会 健康づくり講座 秋の収穫祭 さいの神 おたよりの発行					移住受入の推進			地域おこし協 力隊活動開始			
地区の 魅力を発信					ホームページの公開 SNSの活用 灯の回廊への参画 みずの森フェスの開催								
新たな 生業づくり								2025(令和7)年1月 里山ファーム不動が発足	集団営農開始			小水力発電 売電開始	生産森林組合 独自施業組織発足



■ 広大なブナ林と豊かな水資源

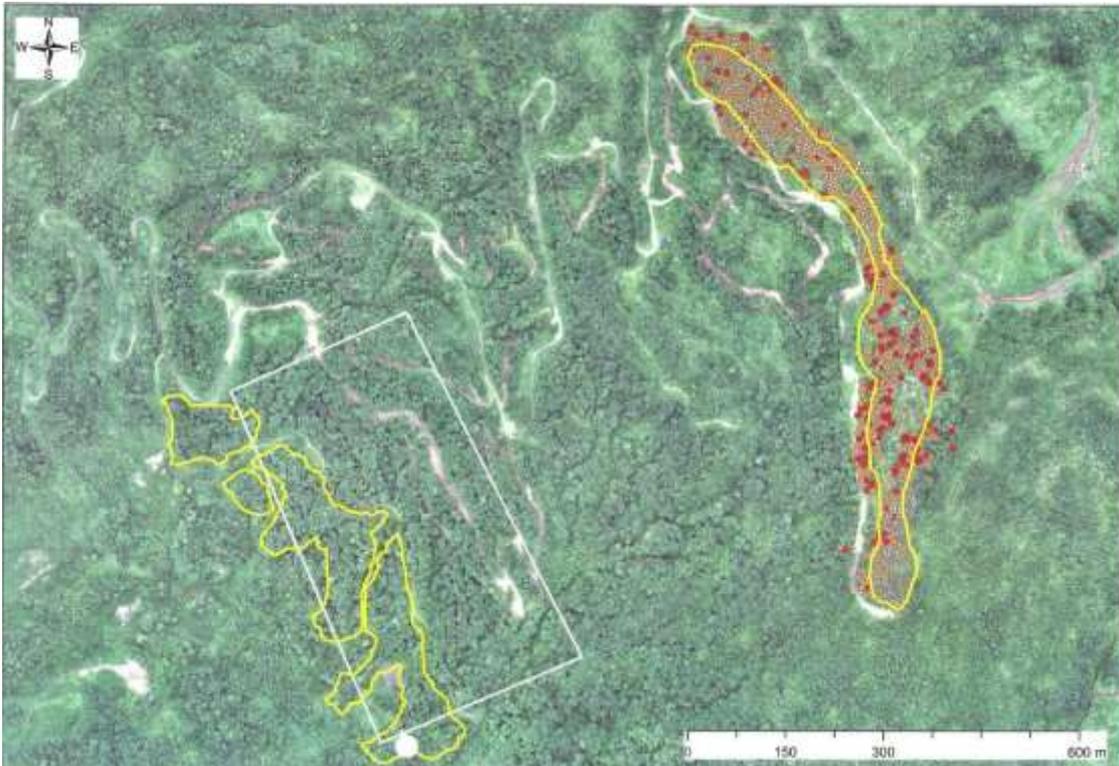




■ブナ林の現地踏査(県、新潟大学)



■ドローンによる資源調査(新潟大学:村上准教授)



■ラジコンヘリによる資源調査



■ヤマハ発動機(株)資料

森林資源量調査の特徴一覧

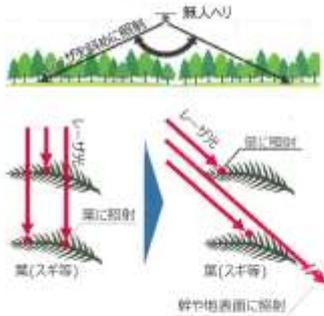
YAMAHA
Power One

■ レーザを使った様々な方法とその特徴 … 目的によって最適な調査方法を選択する事が重要

高度	調査手法	得られる情報	得意面積	特徴・主目的
600 ~ 2,000m	① 有人機 	樹冠 数値~百個/mの 点群データを取得 数値表層モデル (DSM※)を生成 ※Digital Surface Model	1000ha以上/日	<ul style="list-style-type: none"> 広大な面積を一度に計測可能 広域対象の林況把握、地方自治体森林整備計画策定
50 ~ 150m	② 電動ドローン 	幹 地面 樹頂点(白丸)等 から立木情報入手	10ha程度/日	<ul style="list-style-type: none"> 比較的に手軽に計測が可能 数ha程度の林況把握、伐採計画
0m (地上)	③ 無人ヘリ 	樹冠 数千~数十万個/m の点群データを取得 樹幹の点群データを 直接使い直径等の データを入力 ※計測方法により立木形質 に関するデータは異なる	50~100ha/日	<ul style="list-style-type: none"> 小~中面積に対して毎木調査レベルのデータが取得可能 数十~数百haの集約の工数積算、収量調査
	④ 地上搬置型 LIDAR ・レーザスキャナを地上に 設置し定点計測	樹冠 幹 地面	2~3ha/日	<ul style="list-style-type: none"> 林内の詳しい情報を得る事が可能 プロット調査代替、産業計画策定
	⑤ 歩行帯同型 LIDAR ・作業者が持ち、林内を 行走し、計測	樹冠 幹 地面	2~3ha/日	<ul style="list-style-type: none"> 林内の詳しい情報を得る事が可能 プロット調査代替、産業計画策定
	⑥ 人による 実測調査 【労務】	<ul style="list-style-type: none"> 胸高直径等の立木形質のデータ 立木の内部欠陥等も把握 点群データは取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎木調査： 2~3ha/日 ・標準値調査 (100m)： 10か所/日 	<ul style="list-style-type: none"> 最も実績のある方法 林況把握、真実量把握・推定、産業計画策定

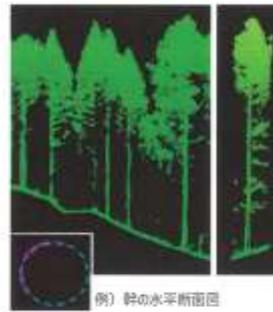
9

1
長時間
ゆっくり
低く飛ぶ



無人ヘリは自動航行で地形に倣って飛行。これにより、樹冠だけでなく、幹や地表面に平均3,000点/m²の超高密度点群を取得します。

2
直接
幹を
見る



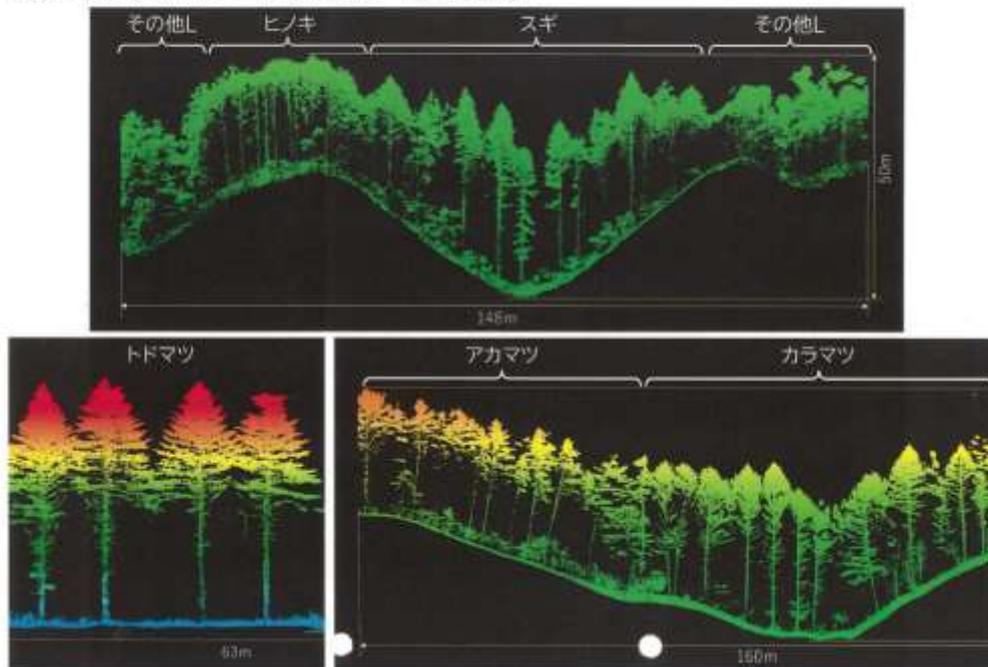
幹の点群を得ることで、その形を浮き彫りにし、①幹直径、②幹座標を直接計測します。

3
データを
手軽に
扱える



アプリ、データをクラウドに置く事で、通常のPCで森林デジタルデータを扱う事が可能。関係者とのデータ共有も可能。また、マウスとテンキーで殆どの操作がOK。スマホアプリのように、直感的な操作が出来ます。

■ 取得できる点群データサンプル (断面図)



■みずの森フェスティバル



名立の魅力発信の検討について（案）

■目的・考察

- ・これまで、各HP等では、観光イベント情報や見どころ紹介といった対外向けの情報や、区内在住者には行事予定の周知を主とした情報発信を行っているが、「名立に住みたい（住み続けたい）」と思わせるような視点での情報発信は行われていないと考えられることから、名立の魅力発信することで、「子どもや若い世代の定住」、「移住の促進」を図る。
- ・上記を達成するには、名立に住まう人々が活躍するようす（名立に住むことは楽しいことだ）を発信していく必要があると考えられる。
- ・また、若い世代の定住やUターンを期待するには、子どもたちが活躍する姿の発信も重要と考えられる。

■検討組織について

- ・多角的な視点を取り入れるため、多方面の団体や個人等による検討組織を立ち上げ、発信内容とその方法について検討する。
- ・子どもに関する情報発信を強化するため、保育園や小中学校等の関係者（学校、PTA 等）からも委員の選出をお願いする。
- ・区外から通勤する方や、移住された方の声も大変参考になると思われる。

（参加団体等の案）

団体等	期待する役割等
地域協議会委員	意見集約、調整
NPO未来ネット・名立	まちづくり、人材育成情報の発信
各地区振興協議会	各地区のようす、取組の発信
保育園、小中学校、育む会	子どもたちが活躍する姿、名立の教育環境
芸能保存会等	伝統行事等の発信
個人 （区外からの通勤者、Iターン者など）	名立に通う中で感じる魅力、住んでみて感じる名立の魅力
ゆめ企画名立	イベントの対外的な発信、若手が活躍する姿の発信

■スケジュール

時期	内容
R7.3～R7.4	地域協議会における検討（プランの具体化）
R7.5	先進地視察（研修）→諏訪地区
R7.6～	検討 ・具体的なプラン、主体、だれがどのように発信するのか ・必要経費（概算）の算出
R7.8	事業計画作成、必要経費を積算し、地域独自予算として提案
R7.9～	準備委員会発足・準備開始
R8.4～	発信開始 効果確認、PDCA